



校長室だより No. 11 (令和3年3月16日)



卒業おめでとう！ 進級おめでとう！

卒業生の皆さん、卒業おめでとう！高等部は、本校

7名、子鹿園分校3名、国立高知病院分校2名、土佐希望の家分校1名、計13名の皆さんが学び舎を巣立っていきます。

16日には本校の小中学部、高等部、17日には土佐希望の家分校、国立高知病院分校、18日には子鹿園分校で卒業式を行います。教職員一同、心からのお祝いとともに、皆さんのこれまでの頑張りに拍手を、そして未来への道のりにエールを送ります。

今年は、新型コロナウイルス感染予防のために、行事等が中止や縮小など大きく制約をされました。大きな災害時によく聞かれたことですが、「普通」に過ごせることのありがたさが身に染みるとともに、これまで「普通」と思っていたことが、実はそうではなかったかもしれないと考え直してみる機会にもなったように思います。卒業生はそのような中でも、精いっぱい力を発揮し、頼もしい姿を見せてくれ、その成長にたくましさを感じます。今年の経験が、自分を大切に、また周りの人も大切にできるそんな成長につながってくれるものと確信しています。保護者、ご家族、関係の皆さまには、卒業生に、そして若草の教育に対しましてご理解、ご協力をいただきましたことに心よりお礼申し上げます。

在校生の皆さんも、それぞれに成長した姿を見せてくれました。来年こそ！と思っていることが実現できるような新しい学年になることを期待しています。進級おめでとう！



学びをつなぐ学校づくり

若草4校では、令和2年度から「学びをつなぐ学校づくり」をかかげ3年計画で「教育課程の改善、充実」「教員の専門性の向上（自立活動の指導の充実）」「文化芸術、スポーツ活動の振興」などに取り組んできました。来年度は、「ICT機器の活用」についても取組に加えることにしています。

「学びをつなぐ」には、子どもたちの12年間の学びをつなぐ、学校の学びを卒業後の進路につなぐ、子どもを中心に学校、保護者、医療や福祉関係機関がつながる、本校と分校がつながることを大切にするという意味を込めています。

令和3年度の取組の具体は4月に改めてお知らせいたします。今年度の取組については、学校評価などを近日中にHPにアップしますご覧ください。



これからもよろしく！

国立高知病院分校

これまで若草グループの一員であった国立高知病院分校が、県立特別支援学校の再編に伴い、4月から高知江の口特別支援学校（高知市大原町）の分校に所属が変わります。

病弱教育対象者（医療的な配慮が必要な自宅通学生）の受け入れに伴うものですが、肢体不自由教育については、これまで通り国立高知病院重症心身障害病棟の入所者や同病院の利用者を対象とした「肢体不自由部門」として継続します。今後も、これまで同様、若草本校・子鹿園分校・土佐希望の家分校と連携した教育研究や、今年から始まったオンラインスポーツ交流や作品交流なども一緒に行う予定です。

ご挨拶

校長として若草に戻ってきて2年が終わろうとしています。3月末で退職させていただくことになりました。教員としてスタートした若草で退職できることを大変うれしく思っています。

教員生活は、県教委事務局勤務を含めて37年間ということになります。そのうち、学校での勤務は、中村特別支援学校の1年を除いて28年間を若草の本校・分校で、教諭・教頭・副校長・校長として過ごさせていただきました。その間、たくさん子どもたち、保護者の皆さんに出会い、就学などの相談に関わらせていただいたり、また担任や主事をしていた時は、子どもたちにとって「楽しそう！」と思うことは、何とかして実現したいという思いいっぱい、毎日笑ったり、笑ったり、笑ったり…楽しく元気いっぱいだったことばかりが思い出されます。一方で悲しいお別れをしなければならないこともあり、肢体に障害のある子どもたちの、そして保護者の皆さまの思いにたいして、自分自身の非力さを痛感したことも多くありました。

あきらめないで少しずつでも続けること、困難は正しく恐れて「どうしたらできるか」を考える、苦しい時ほどしっかりとまわりを向けること…大事にしたいことをたくさん教えていただき、何とかやってこられたなと感謝の気持ちでいっぱい。もっともっと皆さんのもとに足を運んでいけばという心残りもあります。先日本校の卒業生が植樹した「こでまり」の花を見られないのも…ですが、また違った形でお会いできることもあるかと思えます。その時はよろしくお願ひします。



皆さま本当にありがとうございました。